

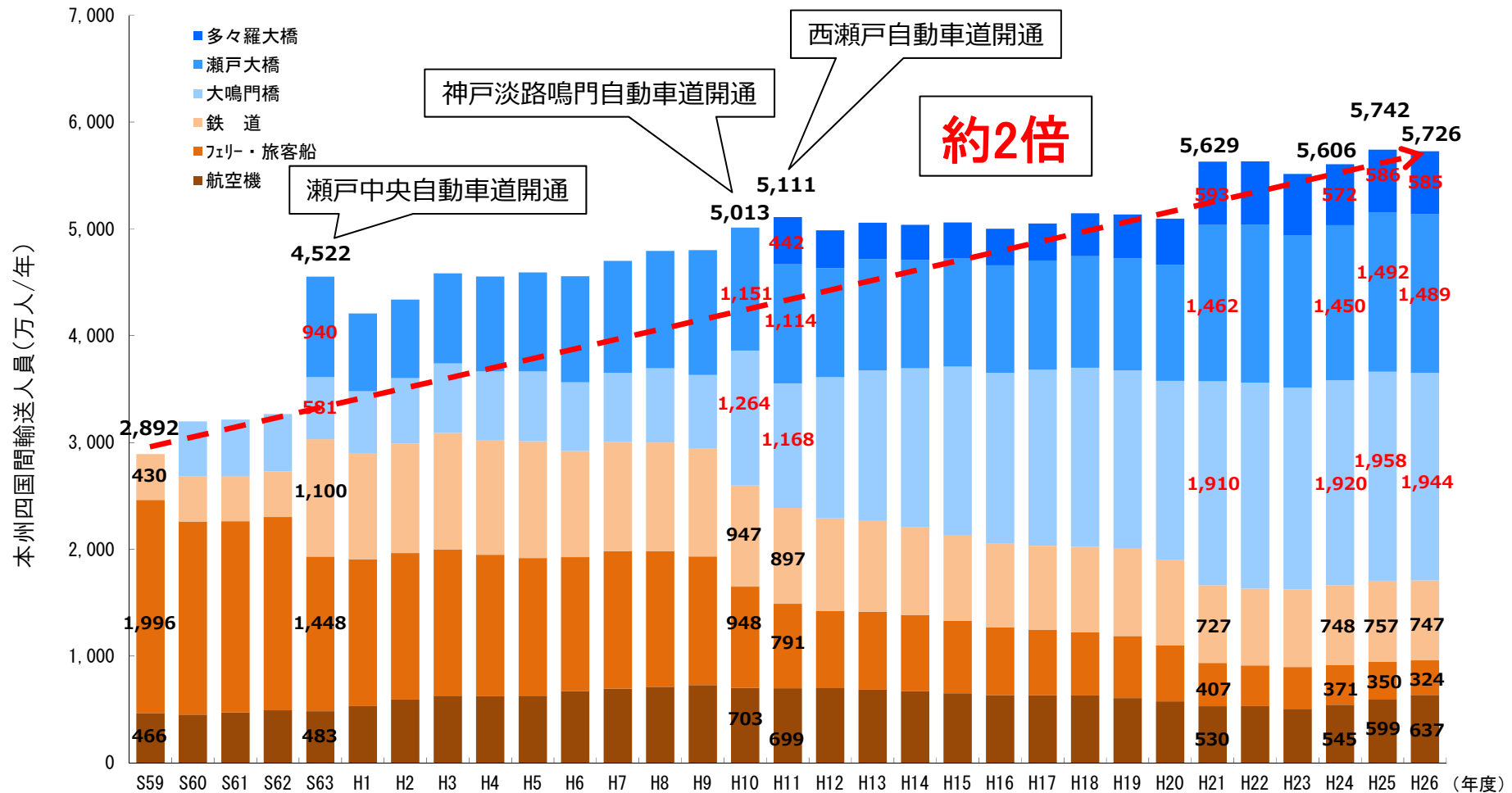
(1)環瀬戸内海地域における交流状況等の 話題について

- | | |
|----------------------|----|
| ①本州四国間の交流状況について | P1 |
| ②本州四国間のネットワークの状況について | P4 |

本州四国間の交流(人の交流)

○H26年度の交流人口は、5,726万人／年であり、S59年度以降、長期的には約2倍に増加している。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移（過去30年間の実績）



出典) 四国運輸局「業務要覧」

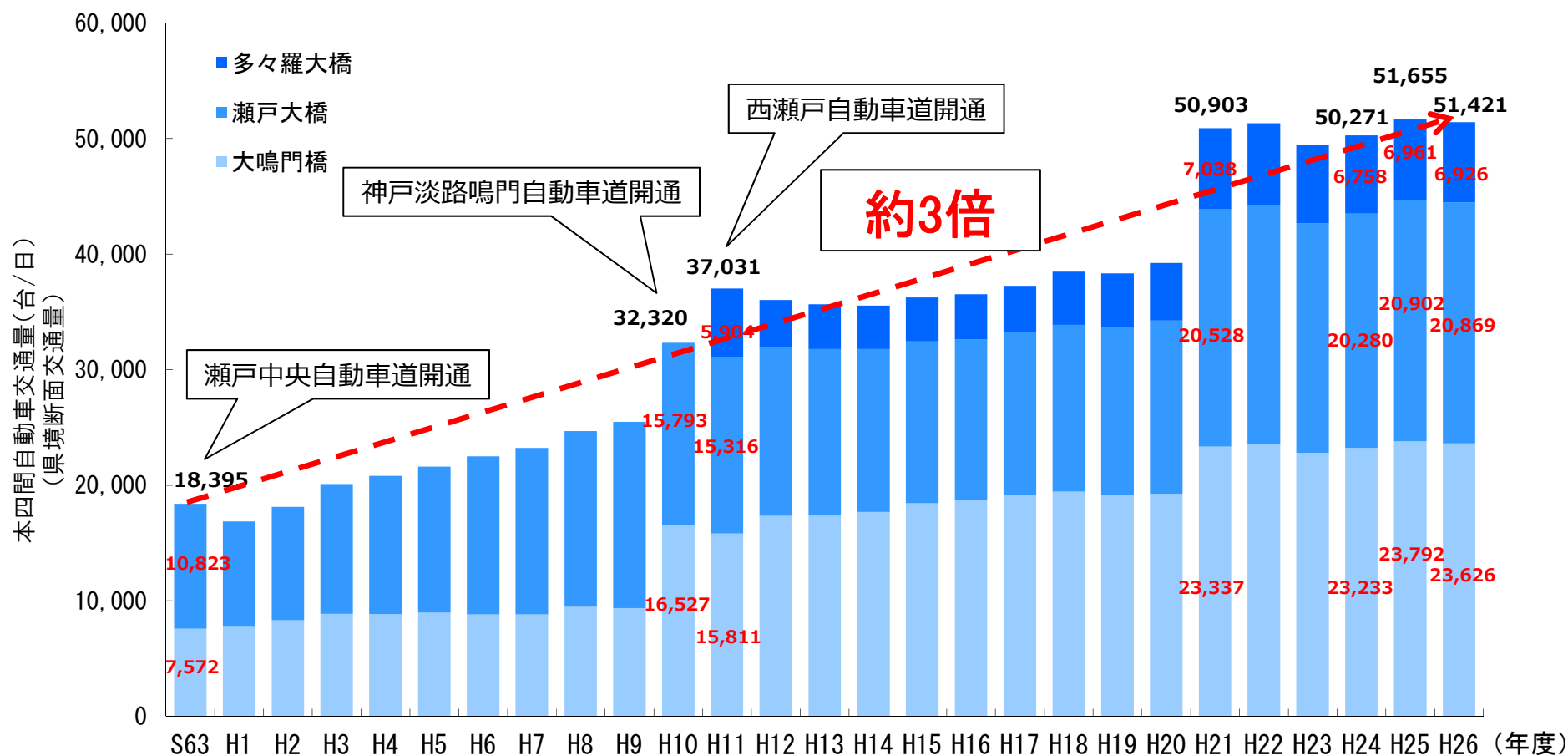
注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客
開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

交通量の状況（本四間自動車交通量(県境断面交通量)）

- H26年度の本四間自動車交通量（本四3橋）は、51,421台／日。
- 瀬戸中央自動車道開通後のS63年度以降、長期的には約3倍に増加している。

◆本州四国間の自動車交通量の推移



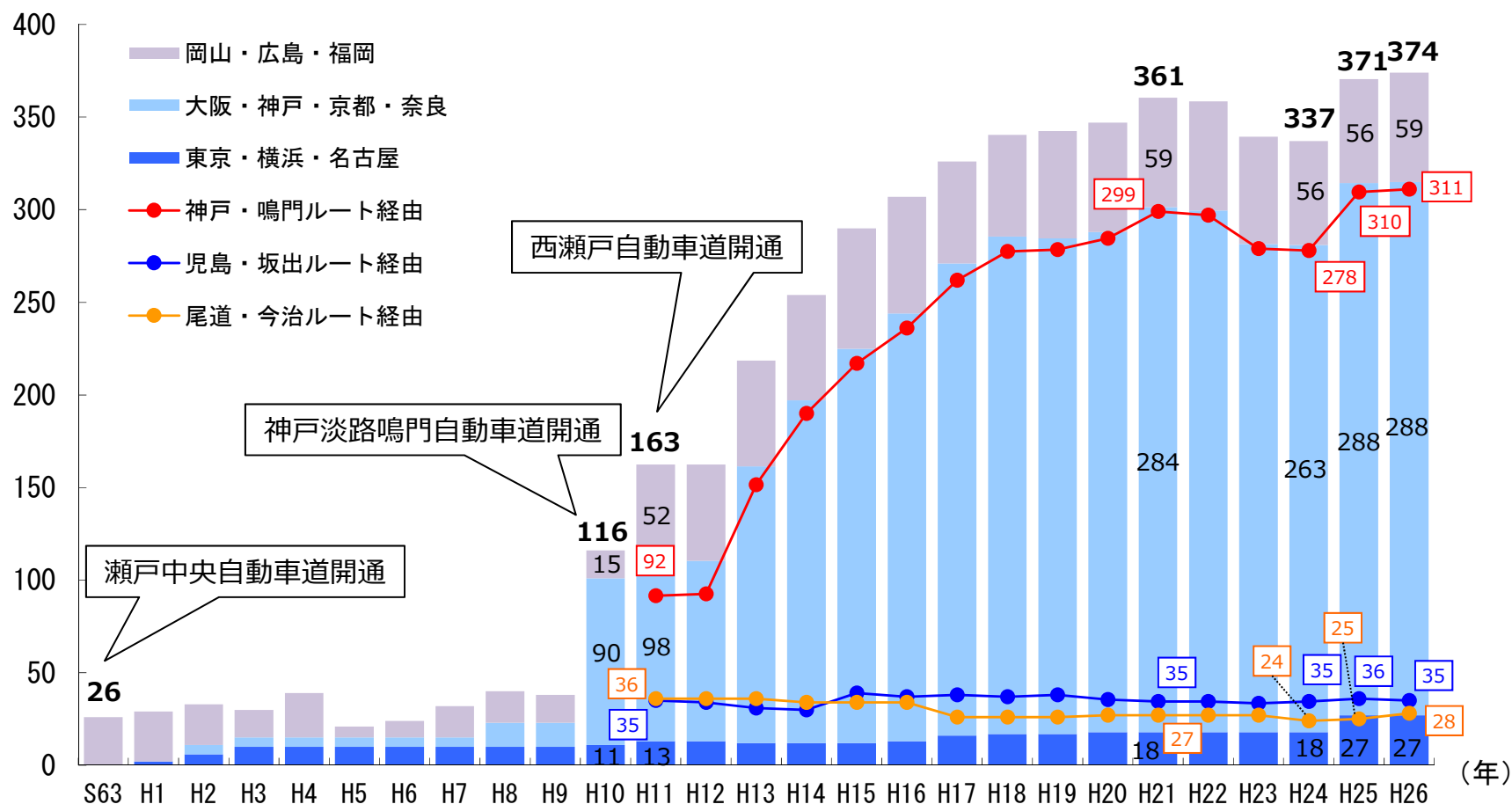
本州四国間の交流(人の交流)

○H26年度の本四間高速バス便数は、374台。

○神戸淡路鳴門自動車道開通後のH10年度以降、京阪神と四国を結ぶ高速バス路線を中心に大幅に増加。

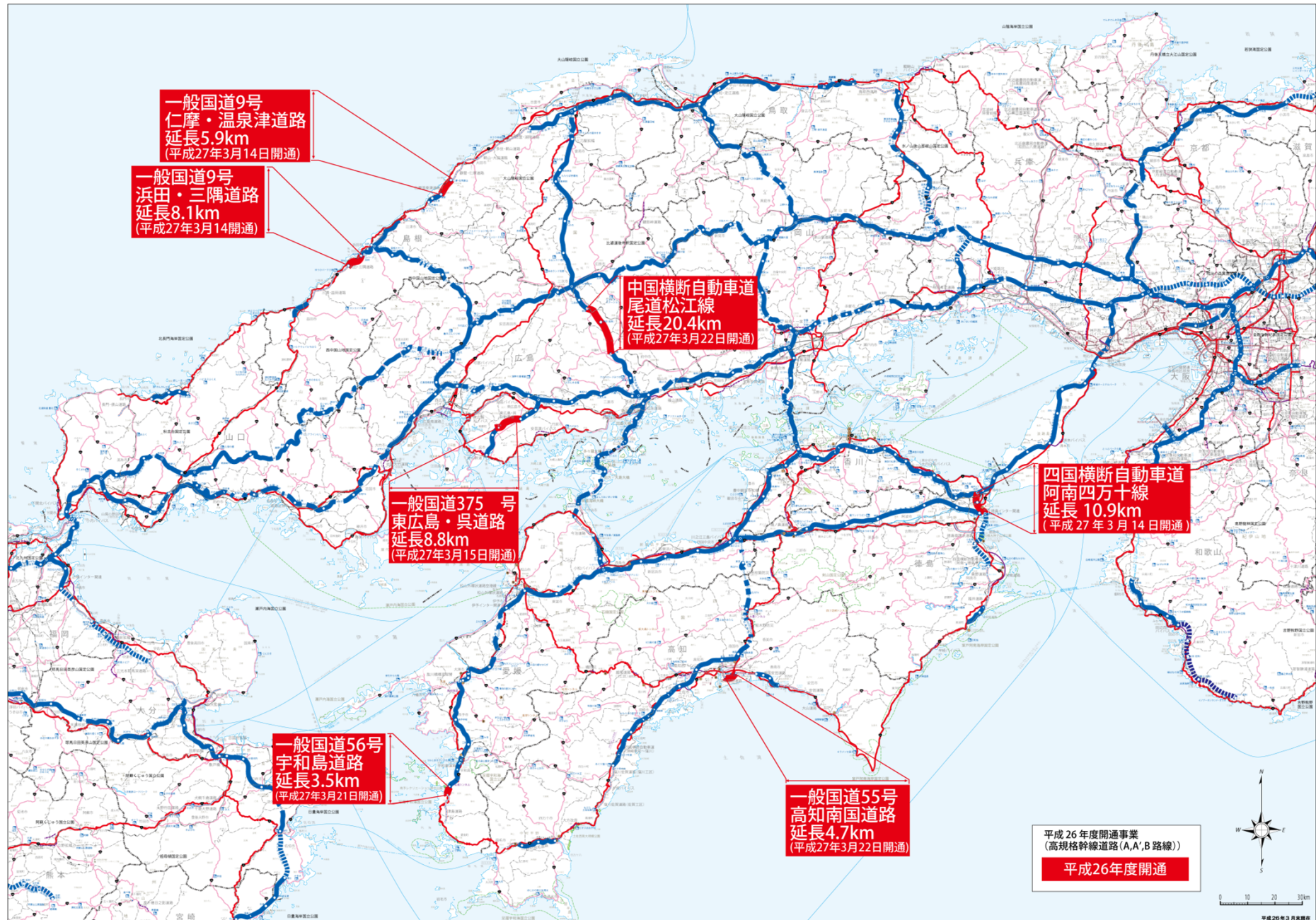
◆本州四国間高速バス便数の推移

(往復便数／日)



出典)「四国運輸局要覧」(四国運輸局)ほか
注:各年10月時点の便数

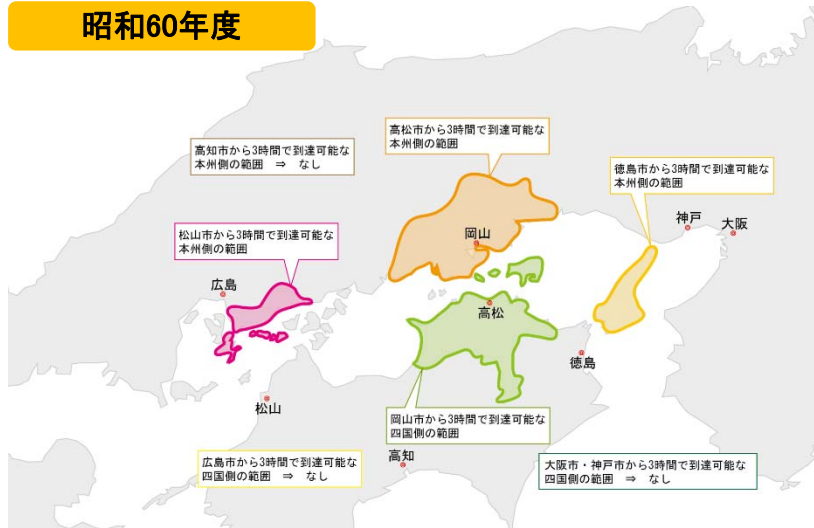
高規格幹線道路の開通状況(平成26年度開通)



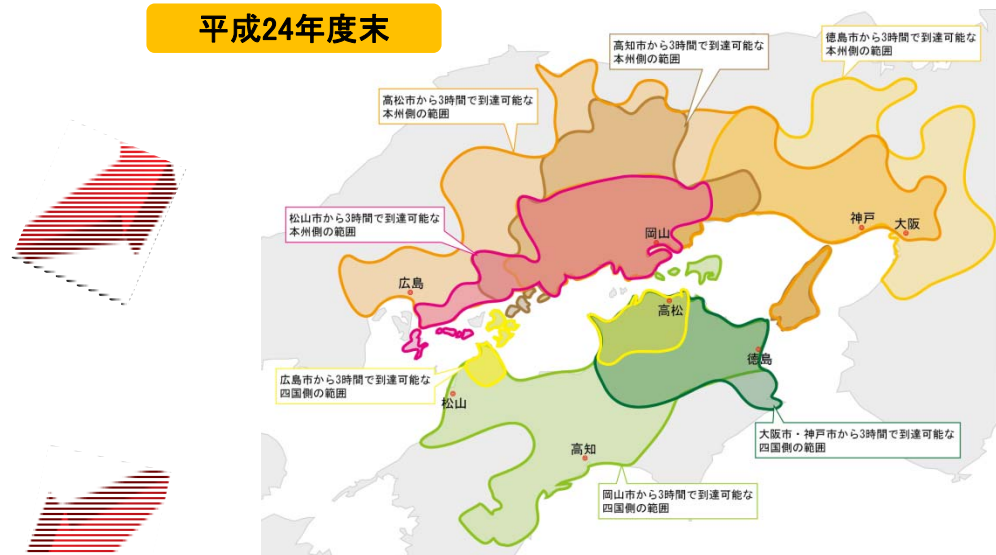
本州四国間の交流(交流圏)

○高規格道路等ネットワーク整備による移動時間の短縮に伴い、瀬戸内地域における主要都市からの3時間圏域の面積は、S60年の大鳴門橋開通前に比べ約7倍、人口は約8倍に拡大。

昭和60年度



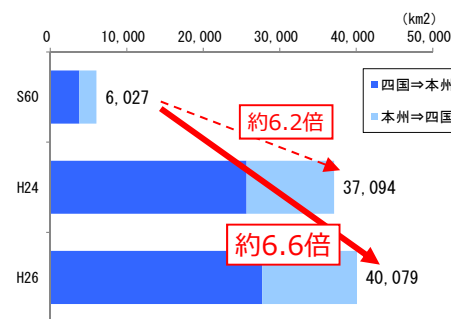
平成24年度末



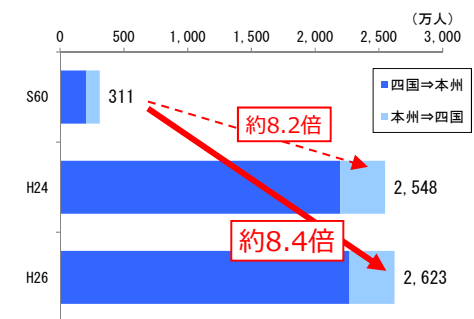
平成26年度末



《圏域面積の変化》

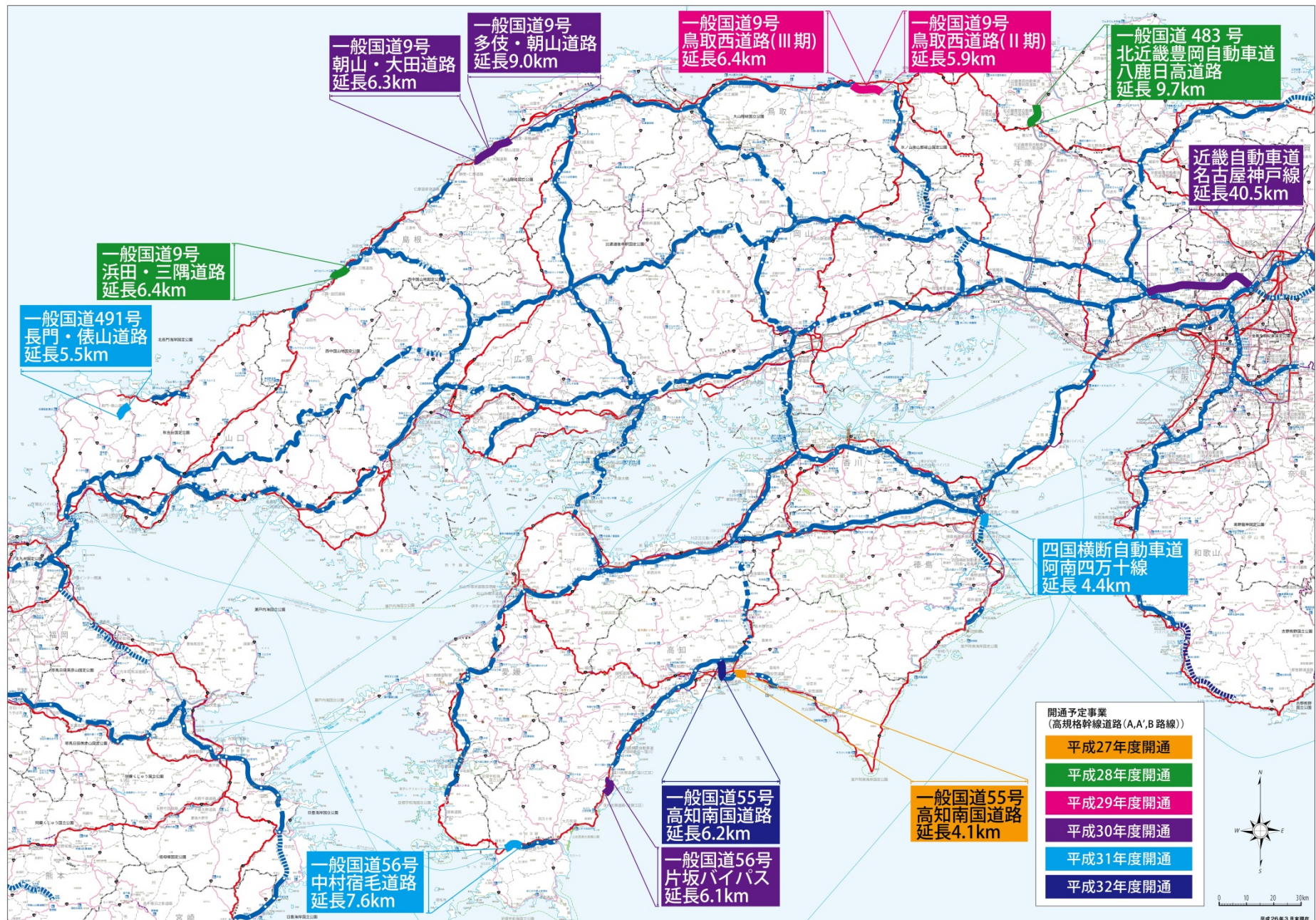


《圏域人口の変化》



出典)「道路時刻表」(道路整備促進期成同盟会全国協議会)、
「全国フェリー・旅客船ガイド」(日刊海事通信社)ほか
注:平成25年3月時点、平成27年3月時点、昭和60年は大鳴門橋開通前

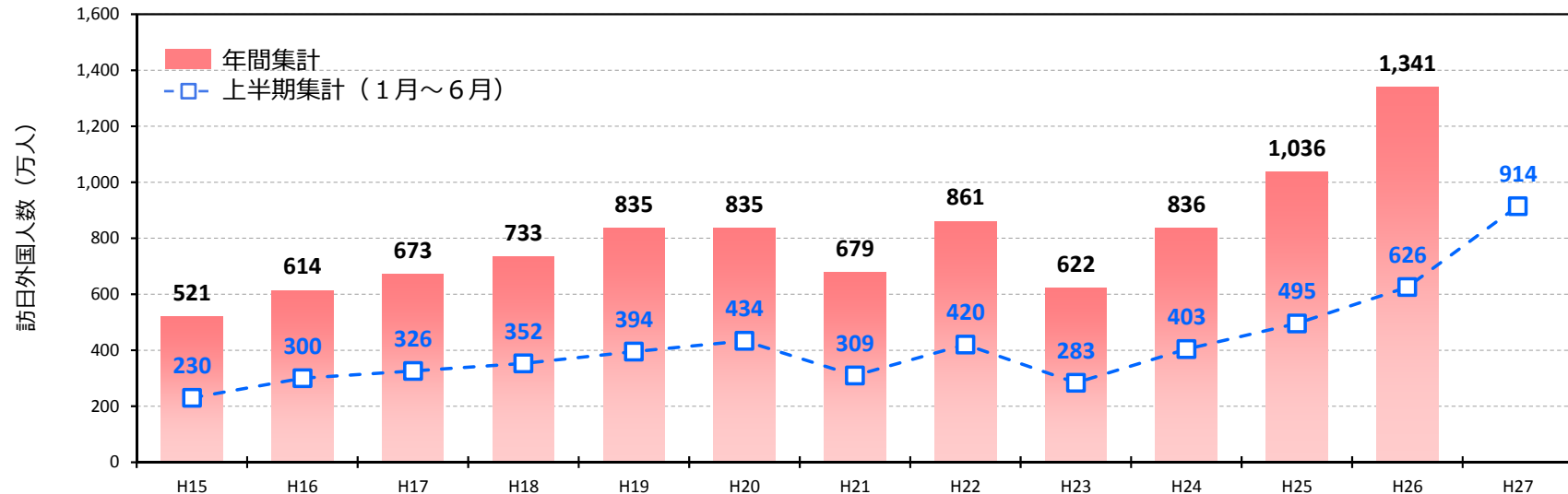
高規格幹線道路の開通見通し状況(平成27年度以降開通予定)



訪日外国人数の推移

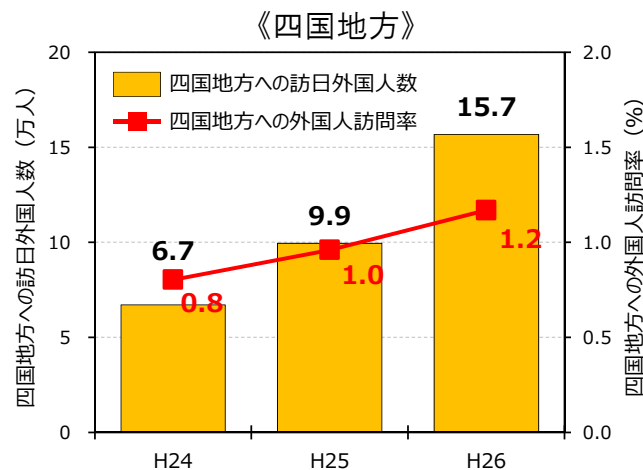
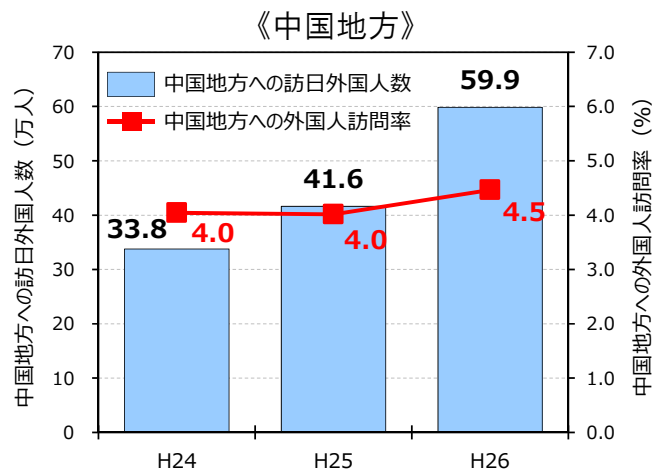
○H26年の訪日外国人数は、1,341万人であり過去最高を記録。上半期集計によるとH27年は更に増加の見込み。
○一方、中国・四国地方においては、増加傾向であるが相対的に低く、外国人旅行客を増加させる余地が大きい。

◆訪日外国人数の推移（全国値）



出典）日本政府観光局（JNTO）

◆地方別訪日外国人の推移（中四国）



各地方への外国人訪問率は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」より

地方別訪日外国人数は下式より算出

$$(\text{地方別訪日外国人数}) = (\text{訪日外国人数}^{※1}) \times (\text{地方別訪問率}^{※2})$$
 ※1. 日本政府観光局（JNTO）
 ※2. 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

地方別訪問率は、空港での出国外国人への聞き取り調査によるものであるため、地方別訪日外国人数は実数を示すものではない